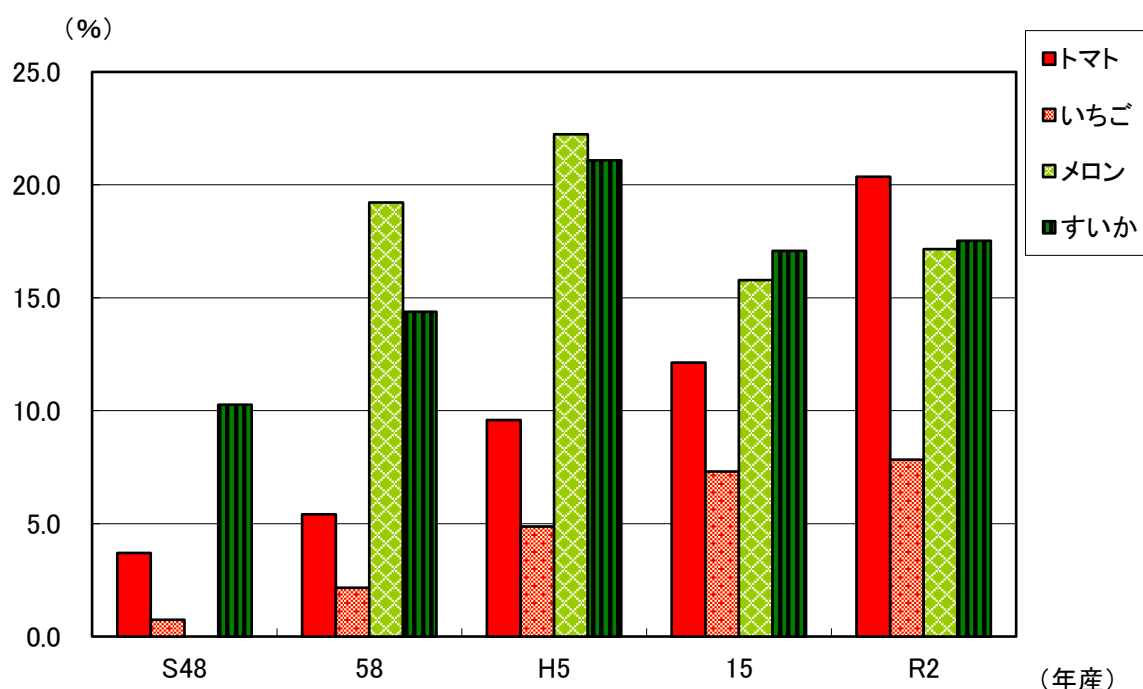


熊本県の出荷量（全国に占める割合）の推移



解 説

【概要】

熊本県の出荷量の推移をみると、トマトが昭和48年の統計開始以降、上昇傾向にあり、令和2年産出荷量は過去2番目となる130,500tであった。

メロンとすいかは、それぞれピーク時の約26%（平成2年比）23,100t、約41%（平成5年比）47,000tであった。

いちごは平成14年まで上昇傾向であったが、その後下降傾向になるも平成28年からは再び上昇傾向となり11,500tであった。

全国に占める割合をみると、トマトが20.4%、いちごが7.8%、メロンが17.1%、すいかが17.5%となっており、トマトの割合が一番高くなっている。

なお、トマトとすいかは、全国1位で、メロン同2位、いちご同3位となりいずれも全国順位は上位であった。

○出荷量

収穫量のうち、生食用、加工用又は業務用として販売した量をいい、生産者が自家消費した量及び種子用、飼料用として販売したものは含めない。

○収穫量

収穫したもののうち、生食用又は加工用として流通する基準を満たすものの重量。

○調査の対象

全ての都道府県を調査対象とする全国調査を作付面積調査は3年（直近は令和元年産）、収穫量調査は6年（直近は平成28年産）ごとに実施されており、全国調査以外のにあつては、調査対象品目ごとに直近の全国調査年における面積調査結果に基づき、全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県、野菜指定産地に指定された区域を含む都道府県、畑作物共済事業を実施する都道府県及び特定野菜等供給産地育成価格差補給事業を実施する都道府県が調査対象となる。

○調査時期

収穫・出荷終了時となる。

資 料 出 所	調 査 期 日	調査周期
「令和2年産野菜生産出荷統計」 農林水産省	令和2年	毎年